

仕事が楽しい人 F i l e . 4 2 : 島崎大志さん (紙袋製造職)



(一番左の男性が島崎さん)

◆信頼が仕事を円滑に進め、信頼は人懐っこさで得られる

今回ご紹介する仕事が楽しい人は、

- ・どこの家庭にもある
- ・たいがいのお店にもある
- ・結婚式の時にも手にする

ものを製造する仕事をしている、島崎大志さんです。

島崎さんが作っているのは、“紙袋”。

島崎さんは17歳の時に、夜間高校に通いながら蕎麦屋で働きだしました。

就職先を蕎麦屋に選んだ理由は、“蕎麦が好き”だから。

勤めて10年が過ぎたころ、蕎麦屋のご主人から島崎さんは、

「私の店の後を継がないか」

「もし継がないのなら、自分も年なので店をたたもうと思うんだが」

と、打診されました。

当時、島崎さんはすでに結婚をしていて、子どもも二人いました。

奥さんからは、蕎麦屋を続けるように言われましたが、
島崎さんは、蕎麦屋で生計を立てるのは難しいと踏ん切り、再就職の道を選びました。

とは言うものの、家族を養わなければならないので、仕事をあれこれ選ぶ余裕はありませんでした。

現在勤務するアートバックの求人広告に目が留まり、応募。
パートですが、再就職が決まりました。

パートの収入だけでは家計が苦しかったので、8時から17時30分までの勤務後、
19時30分から深夜の2時まで、母親が勤める地元のスナックでも仕事をしました。

このようなダブルワークを半月ほど続けていると、上司から、
「社員として働かないか」と声をかけられました。

社員になってからの1年間は、出来上がった紙袋の検品作業をしました。

- ・紙袋に指定の紐が規程通りについているか
- ・紙袋に折り目が入っていないか
- ・紙袋の底の仕上がりに問題はないか
- ・紙袋に異物が混入していないか

などについて検査をします。

これらの検査は、顧客が要求する品質基準に合わせて行わなければなりません。
顧客の要求基準よりも厳しく検査し過ぎると、不良が多くなりコスト高になる。
要求よりも甘い基準で検査してしまえば、クレームになる。

この検査基準のさじ加減が難しいのだそうです。

検査の仕事を通じて紙袋の製造の基礎を身に着けた島崎さんは、
紙袋作りを内職していただいている家を回る職務につきました。

紙袋を作る手順は、

- (1) 胴張り：一枚の紙を折り筒状にする
- (2) マチ折り：筒に蛇腹の折り目を入れる
- (3) 底折り：紙袋の底を作る

- (4) 口折り：上部を折る
 - (5) 穴あけ：上部に穴をあけ紐を通す
- となっており、手間がかかります。

内職回りは、このように手間のかかる仕事を、内職をされている方々に納期通りに仕上げてもらおう職務です。

内職される方々は、50歳から60歳代の主婦。
子育てを終えて家事にも余裕が生まれ、空いた時間を有効に使いたいという動機から内職をする方が大半なので、信頼関係を築けないと、なかなか納期通りに仕事を進めてもらえないのだそうです。

下手をすると、
「そんなことを急に言われてもできるわけないでしょう」
とか、
「午前中は出かけるから、今日はできないわ」
とできない理由を並べられて、無理を聞いてもらえません。

が、島崎さんは、持ち前の“人懐っこさ”で、この仕事も見事にやり遂げます。

続きは、下記の“いいね×10の働き方”をお読みください。

◆島崎さんが大切にするキーワード
努力は決して裏切らない
空手を通じて体得した考え方で、行動指針にしています。

◆島崎さんのパワー〇〇
笑顔
仕事のやり取りで笑顔を返してもらえると、嬉しさが込みあがります。

◆島崎さんのコツコツ
筋トレ・股割
体力の維持だけではなく、ストレス解消にもなっています。

◆いいね×10の働き方
島崎さんが、内職回りの仕事に就いた時に配慮したのは、

ちょっとした気遣い
でした。

例えば、

内職の仕事を持っていく前に電話を一本入れる。
「これから伺いますので、よろしくをお願いします」
というような感じで。

時には、

仕事の帰りに顔を出して、
「調子はどうですか」
と声をかけたり、

たまには、
お菓子を持っていったりしました。

内職の仕事のお願いの仕方も工夫しました。
本当は、紙袋を200枚作ってもらいたいのだけれど、
いきなりそう言うと、「急にそんなことを言われても」との反応が返ってくるので、
「100枚お願いします」と言いながら、
200枚の紙袋の材料を置く。
そして、「もし、時間があったら、こちらもお願いします」
と言い置くのだそうです。
そして、翌日、お願いした100枚の紙袋を引き取りに行くと、
200枚仕上げている。

島崎さんは、
「内職さんは、優しくて真面目な人ばかりなので、材料を目の前にすると放っておけなくなるみたいなんです」
と200枚置きの種類明かしをしてくれました。

島崎さんは、人懐っこいだけでなく、人間の深層心理をしっかりと押さえて内職さんと接しているのが、この事柄からうかがい知れます。

私が島崎さんに、

「内職を引き受けていただいているおばさんには、相当可愛がられていたのでしょうね」と問いかけると、

島崎さんは照れ笑いしながら、

「そうかもしれませんね。担当した当初、内職さんから、『この娘とお見合いしてみない』なんて言われて、写真を見せられたことがありました」

「私が、もう子どもも二人いるんで、すみませんと答えると、『え~っ!』と驚かれました」なんていうお見合いエピソードも教えてくれました。

すると島崎さんから、

「もっと面白い話があるんですよ」と別の話題が。

それは、島崎さんの長男が小学校4年生の時の出来事。

学校の社会科見学でクラスメートと電車に乗っていて、小菅の刑務所の前を通った際に、島崎さんの息子さんが、大きな声で、

「僕のパパ、ここに入っていたんだよ！」

とみんなに言ったのだそうです。

この発言を聞いた友だちや、担任の先生は、びっくり仰天。

実は、刑務作業の一つとして紙袋の材料を刑務所に持ち込んでいて、

島崎さんはある時期この仕事の担当をしていたので、刑務所には定期的通っていました。

このことを、島崎さんの息子さんは、

「僕のパパ、ここに入っていたんだよ！」

と表現したわけです。

この笑い話の主演となった島崎さんの息子さんは今、

島崎さんが勤めるアートバックの社員になり働いています。

島崎さんの話は続きます。

「4月末に肺炎で入院し、数日間会社を休み、みんなに迷惑をかけてしまったんですけど、この時息子にこんなことを言われました。

『お父さんが入院している間、みんなが僕に、お父さん大丈夫かいと声をかけてくれたんだ。みんながお父さんを心配してくれて、僕も嬉しくなった』

「うちの会社は、みんないい人ばかりで、温かいんです。

そして、我々が作っている紙袋は、モノをぞんざいに扱わない。大切に作る心を形にしたもので、たかが紙袋、されど紙袋だと思うんですよ。」

作っているモノも温かい、働いている人も温かい、こんな温かい会社を発展させて、将来は、紙袋と言えば“アートバック”と言われるようにしたいです。
だって、息子が定年になるまで50年以上の期間があるので、盤石な企業にしないと息子に申し訳ないじゃないですか」

自分の息子が自分の会社に入社してくれたことを喜び、
そんな自分の会社を誇りに思い、
会社の将来を見据えて仕事をする島崎さんは、
いいね×10
の仕事が楽しい人です。

◆島崎さんのプロフィール

職業：紙袋製造職

所属：アートバック株式会社 (<http://www.artbag.co.jp/>)

◆パッケージデザイナーとは？（紙袋製造職に近い職種として選択）

（13歳からのハローワークの公式サイトから抜粋しました）

パッケージデザイナーは、商品の包装や容器などパッケージのデザインを専門とするデザイナーのこと。パッケージデザイナーは、その商品の購買層や会社のイメージ、使用する素材と商品の相性などを考慮し、内容や魅力が消費者によく伝わって思わず手が伸びるようなパッケージデザインを行う。そのためには、依頼された企業の担当者とのコミュニケーションや、マーケティングをしっかりと踏まえる必要がある。パッケージデザインは、そのパッケージひとつで商品の売れ行きが大きく変わることも多く非常に重要な仕事だ。すぐれたパッケージデザインは、長く消費者に愛されることによりそのメーカーの顔と言えるようなものとなったり、たばこやお菓子、酒類のデザインの例のように、その国の文化を代表するものとして認められたりすることもある。

◆紙袋製造職に求められる能力

人懐っこさ：オープンマインドで誰とでも接する力

気遣い力：相手の立場に立って発想し行動する力

洞察力：どうしたら気持ちよく仕事をしてくれかを推し量る力

シンプル思考：物事を複雑に考えずに単純に簡単に捉える力

ユーモア：いろいろな出来事を笑い話にする力